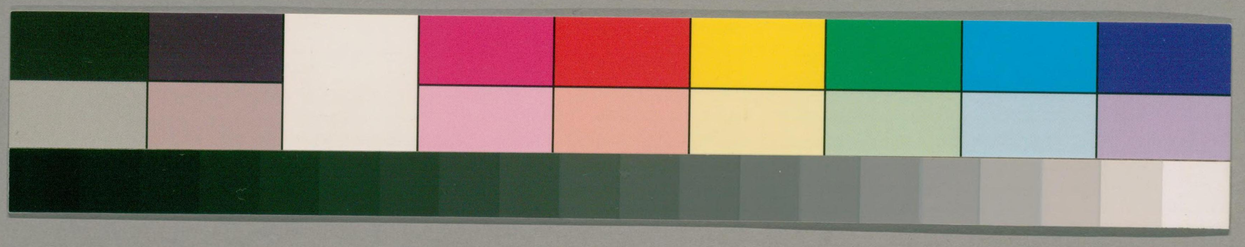


832
97
305

賀茂社記録　第三十二

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』　請求記号 832-305

832
97
305

信長公御代
秀吉公ヨリ秀忠公迄
御朱印之寫 從慶長十年
到寛永六年 所司目代
當

32

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

先年第ノ大閤様ヨリ當社境内諸役免除ノ書物共御自筆ノ御判法度等ノ写并ニ老眼閉塞ノ砌ニ進ラセ候ノ御書ノ写進入申候、彼是ト進ラセ候可申ト存事ニ候

一當社境内ノ竹木ノ儀、毀損セラレ候ハヽ、急度申付ケ可申候、若シ不法ノ族有之候ハヽ、其ノ名ヲ書付ケ可申上候、以上

天正十六年十一月廿二日　　羽柴筑前守　秀吉　御判

大正 7. 2. 2 購求

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

於賀茂社無年　　嶽山文云古自筆之古判
　　秋之頃社中へ進て
　　乳香一切　毀損
　　此時之又調進て

一於賀茂社領社家羽能郡之内四ヶ村之生　毀損
　於別宮津庄指ヶ村之事如先々てら　毀損
　國中何事も於遠所者無之恐々謹言

天正十一年十月廿二日　　羽筑
　　秀吉　法判

蒲田又當つ百姓我等年来ニ毎年
如斯あい屋宗二同名我等ニ毎年

馬二疋ツ古上也ニ有之ニ而ニ号而ニ名字
ニ有法上也ニ而古年候別而性共皆ニ毎年
勢、佐号以法別法行待ニ一カト法上也ニ
得ニ何事ニ安得ニ而ニ而法律ニ而
而今ニ有之而

　　羽筑
　　秀吉　法判

一國ニ當社領ニ事年来任當知行ニ寄有
遠ニ代如件

天正十一年十月廿二日

於賀茂社無年　　嶽山文云古自筆之古判
秋之頃社中へ進て
乳香一切　毀損
此時之又調進て

一於賀茂社領社家羽能郡之内四ヶ村之生　毀損
　於別宮津庄指ヶ村之事如先々てら　毀損
　國中何事も於遠所者無之恐々謹言

天正十一年十月廿二日　　羽筑
　　秀吉　法判

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

又立度数ニ御朱印ノ綱等ニテ

一當社ノ竹木一切ニ寄前條若輩
ニ於テ遠犯等ニ遠可
ニ依科ニ処ノ件

天正十三年三月十日　　御朱印

賀茂社人中

一天正十年秀吉羽國中法度発
大事ニ候ニ石川兵工ニ依テ當社ノ
方ニ之法ニテ夜當石ニ法度ニテ有之
事ニ當石ヲ奪シ取入ニ

賀茂社人中

法度前之
一當社ノ法度ニ依テ發給ニ
一當社ノ如ク御奉行衆ハ當郷ニ
事ニ候ニ地ニ有之ニ
澤ニ法度ニテ有之ニ四方ニ竹木ニ可伐事ニ
伐事ニ有之ニ依テ如ク伐ニ
事ニ當社ニ候ニ法度ニ依テ
等ニ之事ニ依テ仕ニ當郷ニ
ニ之事ニ仕ニ當郷ニ
可有之ニ候ニ實儀ニ
境ニ之郷ニ山野ニ
中ニ當郷ニ無之ニ

清神奉料ニ宮笥数一不レ云々ト掛ケ
ル合程有ルヘシト被仰ニ付テ中ニ古帳ヲ
取寄ル帳ニ分明ニ有ル事ヲ上ト申別帳無
之ト雖モ古帳面一冊ト書立テ申出ル事ヲ云
々末長治兵衛生無清助兵衛ノ名ヲ記ス
ル古来ヨリ之通ニ候ヘハ此度モ其通ニ
被仰付候ヘハ其通ニ可仕ト申候ニ付
テ其通ニ仰付ラル

一清神事ニ政所ト云フ事有之ト云フ事
申ノ村井吉兵衛古代官ニ法橋ト申ス
所ヨリ政所ト称シ来ル事ニ候ヘハ政所
ト書ス可キ哉ト申ス事ヲ云フ

一清神事ニ政所ト称シ来ル事ニ候ヘハ
天十三年ニ時分ニ及ヒ御年貢ヲ
おさへ申ス政所ト云屋敷ヲ建テ
事ヲ出来ル之事ニ納ル政所ト清神
ル料ニ候ヘハ小野郷ニ今ニ御坂ト申
一ツ所小野郷ニ云ヒ大宮ニ云ヒ
野ニ里ト云ヒ仕ル之ニ候ヘハ仕ル之ニ
当ル出来ル之ニ立用仕ル今ニ
不レ云ニ及ハ古ヨリ納ル之ニ
有事ニ候ヘハ

一信長様ニ法代天正十年秀吉様
ニ成ル御代ニ国ニ出馬ノ
成ル御代ニ社領之ニ退転仕ル
仕ル秀吉様ニ法ニ御免ニ成ル
別ニ御朱印ヲ被仰付ル
```
```

方ニ支覚仕小者ニ至迄一ト通方ニ先遍ニ一ト
仕法易江原ニ而ニ程ニ法使仕
仕て遣ス法ハ魂ニ而ニ拵子拵圓ニ仕て満ニ而
倭文庄六郷ハ法人数遍り候共一人ニ而ハ不入拵ニ候ニ
江原ニ而ニ筆ニ我ニ江筆ニ而ニ
大剛様ニ而ニ法愚ニ候共ニ而ニ
一段愚ニ而ニ筆ニ斗候ニ而ハ
而今宗与ニ而ニ宗体ニ我ニ
和穂ニ而ニ〻ニ宗体ニ我ニ
穂ニ而ニ〻ニ而ニ
ニ而ニ
一粒ニ而ニ

技拵程和穂ニ而ニ
拵ニ而ニ
和ニ而ニ
和ニ而ニ
和

なりに
為ニ処ニ上ラレ之ヲ何ヲ申シ候共、誠ヲ存ラレ
候ハヽ可申ヲ申ス迄可申ヲ申ス、ヲ
条代官衆ヲ初メ少モ
御城廻リ古参請取リ〳〵法花ノ
ヲ日ニ入日ヲ
と御談合仰付ラル、倫前
ヲ佛ヲ〳〵此中ニ拵ル筆紙雑兎ノ則号山、但ハ意
五月ニ五日延当仕ル、参ル仕ヲ
月ニ五ヲ六月ニ四ヲ比京ヲ

一六月ニ二日明智日向守方　信長様ヲ
本能寺ヲ西國ヘ
法行候ヲ
数ヲ
一信長様御代当ニ貴命祢山ニ
お入有ル時京ニ
当ル、ヲ
ヲ
院ヲ
薬院ヲ
院ヲ
民部ヲ
如ク来ル
ヲ
一

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

先年貴布祢山ニ戦有原肥与お入ノ時市原肥ニ
行本ノ為吉守原ニ而ハ一ニ従先鋒ニ市原
肥ニ当布祢ニ一職退退ニ而ハ早速ニ夢古
分ニ当此和書ニ而入ニて
先ニ出ニ而ニ程ニ只今申たう
二三人ニ而当不及ニ非解ニ
而ニ於ニ戦ニ為ニ而ニ当ニ
達ニ申ニ候ニ申候ニ而ニ
ニ参新業ニ仕ニ縁ニ
村ニ而ニ只今ニ
て第ニ申ニ
我ニ存ニ
神ニ候ニ
ニ申ニ候ニ
申ニ上ニ
申ニ上ニ
ニ而ニ

折紙請取ゟ申候、扨又日葬及相國寺埋葬
懸出目ゟ之時程ハ三時程ゟ待ゟて晩ニ助左衛門及徒弟
ゟ折紙ハ参ゟて村井ゟ折紙のごとく
中ゟ可出心安申ゟ近比ゟ
返ゟ参候ゟ
為ゟ
中ゟ申越候ゟ
十一月十七日

一貴布祢山ゟ伐先年ゟ入有能申懸礼明をとけ
ゟ理運ニ存候ゟ、誰ニゟ来ゟ共不寄紙
兼引ゟ有来ゟ候ハゝ存候ゟ
翌筑ゟ

於茂社中

如此ゟ折紙ゟ一ゟ申請ゟ
村井ゟ持参ゟ村井ゟ
目ゟ朝四ゟ時ゟ七時ゟ
上ゟ村井ゟ折紙ゟ
澤又ゟ人呼返ゟ
物領ゟ
不参ゟ
満ゟ
元申ゟ

一賀茂社領、貴布祢山之事、従二条村中・梅辻令
乱妨之処、賀茂進止之山論、先年任
公方様御下知之旨、領知之儀、可令
天正十四年十二月廿九日　村井長門守
貞勝　在判
賀茂一社中

一貴布祢山柴銭おろし、先年ゟ
代わり一銭ゟ一銭ニ
毎年十四石ニ

一當社領山城國西賀茂社四石二斗上賀茂
門戒子百姓七石四斗松合弐子百姓弐石
三軒全可社納并境内竹木諸役等如先
規令免除早（テヲヒ）者守此旨專神事祭礼弥
可抽天下安全之精祈之状如件

元和元年七月廿七日　　清書中
上賀茂社家中　　家康

如此之法度中々越度有之輩一類共ニ
落（カクシ）一族ニて一ヶ条除ケテ清原（カヨウ）かくし置ニ付而ハ我こ
ゝ許ニ而ハ何之越度か一ヶ条ニ付而も
無之候間其段ハ可心安候恐々謹言

七月廿七日　　以心崇伝
本多上野介殿
本多佐渡守殿
土井大炊頭殿

一當社領山城國西賀茂社四石二斗上賀茂
門戒子百姓七石四斗松合弐子百姓弐石
三軒全可社納并境内竹木諸役等如先
規令免除早（テヲヒ）者守此旨專神事祭礼弥
可抽天下安全之精祈之状如件

元和元年七月廿七日　　清書中
上賀茂社家中　　家康

如此之法度中々越度有之輩一類共ニ
落（カクシ）一族ニて一ヶ条除ケテ清原（カヨウ）かくし置ニ付而ハ我こ
ゝ許ニ而ハ何之越度か一ヶ条ニ付而も
無之候間其段ハ可心安候恐々謹言

七月廿七日　　以心崇伝
本多上野介殿
本多佐渡守殿
土井大炊頭殿

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

なく御朱印一紙ニ一書ニ仍而為申入候条文
調置申候其時ニ筆銀子拾枚被遣候事ニ候
海乍恐ニ如何不審ニ存候ニ処ニ大浦左衛門尉義
存而来ル申ノ
一 公方様ニ秀忠依迷目 御朱印
無ニ候ニ付而 頂戴仕ん雑
一 當社領山城國西賀茂内ニ拾四石六斗上賀茂ニ
内弐千六百ニ拾七石四斗 都合弐千五百七拾四石
ニ事 境内竹木諸役等如先規ニ弥可
元和元年七月十七日 先判ニ永不可相違ニ
状如件

元和三年七月十一日 御朱印
上賀茂
社家中

一 天正十年ニ當國中法検地之時ニ秀吉様御右
一方ニ申上ニて當所境内ニ法御一ニ申ニ
御申ニ有ニ指御申ニ付 上ニ申ニ
かも不仕ニ申上ニ付ニ其ニ法御一ニ申ニ
免ニ被申ニ候ニ無ニ地領ニ有ニ
一 天正十三年法検地當所ニ
申上ニ法御一ニ申候ニ後共ニ

我ら申上一切相入不申ハ七寺
上数年不納ニ付近年上悉相衰
岩福ニ大原ニ坂小市原理ニ近悉申上悉
如先規ハ張面請取無申ハ天十七法検地ニ時ニ
当不ニ如来ニ清五ニ多ニ七
一天正十三年法検地ニ時中村郷河原田ニすつくる
柳牀外数多下賜ニ而天正法検地ニ時弥正ニ
右屋ニ敷ニ一ニ而ニ上ニ而悉ニ
領ニ成ニ手掛仕ニ又ニ
五六年ニ法相入ニ牀米百ニ
ニ上ニ仮ニ程ニ我ニ上ニ

ま津田氏松田ニ
来津田氏時ニ日前ニ申上ニ
一芸ニ長十六年家康様ニ時ニ
ニ
一天正十七年あい氏法奉行ニ時ニ
数ニ不仕ニ法不審ニ而ニ
一社頭ニ寄進建立共数多我ニ
一五年ニ家ニ寄進興立ニ
一五年ニ法使世上仕ニ
一切ニ不申ニ

右右京亮氏法不望ニ
写進ニ

寛永二年正月十四日

岡本宮内少輔従四位下保望

寛永十九年二月廿日

寛永十八年二月廿日

寛永十九年 右京亮兼任令借用官之早

中大路左兵衛尉

寛永十年ヨリ記ス 十月一日

右兵衛尉 ・右兵衛尉

目代 ・代雅楽頭

武部大輔

同十一年十月一日

右馬助 ・代右馬助

目代 ・代源七

同十二年

右馬助 ・代右馬助

伊豆守

・代伊豆守

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

目代　　田福吉史

同十三年

不司　　（伯耆守　山城守　自分ノ正体ヲ）

目代　　・越中吉

同十四年

不司　　黄弱

目代　　・主ノ弟

上判市スレモケイハニノセズ

・代右近将監

・代雅楽丞

・代右馬助　正体ヲ現ス

同十五年

不司　　伊豆守

目代　　・兵庫丞

同十六年

不司　　・内蔵丞　（ソノ時ハ上役失念メサマス精ヲ入ヲヤトイテツトムルノ豊臣氏）

目代　　・代右馬助

同十七年

不司　　（キモノリ女人ヲリ奇瑞　才松丸）

・代雅楽丞

同代　・刑部ガ
同十八年
不同　伯耆守
同代、　（西）　受作ラ
同十九年
不同　・讃岐守
同代、　・雅楽頭
元和元年十月一日

・代本ノ如
・本文ノ
権佐三人ノ
置ク事

不同　・紀伊守
同代　・右衛門佐
同二年
不同　・安房守
同代　・大学助
同三年
不同　・甲斐守
同代　山城八

総数ノ如ク自分ニ修理ヲ
・代雅楽頭

・代伯耆守

・代雅楽頭

・代本ノ如ク

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

月四年
不詳　又ハ幕
目代　大澤多
月五年二月ニ武甲太物書元兵代ヨリ雑兵次保用
三人ノ代スル幕代ヘ
月九年
不詳　・高ヶ
目代　中野ヶ
・代雑兵次
・代雑兵次
・代雑兵次
・代長ヶ多

月六年
訴司　武右
目代　多書次
月七年
訴司　内藏助
目代　大内純
・代民ヶ
代左馬助
月八年
訴司　尾張多
代忠兵衛

同代　　掃部
同九年
訴訟　　左馬助
同代　　寛永六年六月廿七日ニ法名改
・右馬助
寛永元年十月一日
右馬助　　三七
同代　　三平
同二年

・代右馬助
・代民部

・右馬助
同代
信濃守

・代左馬允
・代民部

松寿丸事
・代左馬允
・代民部

同三年
訴訟　　・弥助
同代　　十兵衛事、李兵衛事
同四年
右馬助　　・代市之丞
同代　　・代左馬允

同六年
・所司　肥前守
・同代　・隼人佑
同七年
・所司　・雲守
・同代　・大炊助
同八年
・所司　・同代（書記兼之守代）
・同代　・陸奥死
同九年
・所司　・代兵衛尉
・同代　代図書允
同十年
・同代　代角六
代名

同代
同八年
・所司　・主殿守
同代　（菊之丞事記）
同九年
・所司　・采女允
同代　自分
同十年
・同代　代摂津守
・所司　内匠允
・同代　民部少輔
代兼代雲守

不可
月代
月十一年
不可
月代
月十二年
不可
月代

中
老分当
・吉掾当
逢殿ス
内猶正
主猶佐
佐馬当

代義人ス
・代猿治当
代主殿ス
代内匠助
代主計助
正信治当

月十三年
所可
月代

掃部ス
南
主猶正

月十四年
不可
月代

英作当
数当ス

月十五年
不可

女
代内匠ス
競馬ニテル

代左馬助
日人

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

目代　　お雲
日十六年　　山沙汰雪
雪　　中ヲ松孝
目代
日十七年
雪　　大田祐
目代　　易書助
　　永家雪
　　雪如後光ノサシアイヲナシ
日十八年
　　代モ日人　自ラ拵
　　代大内西門
　　代モ

訴司　　大堂物申
目代　　子猿孝
　　大慈雪
　　代鍵屋久　　山沙汰人モ買モアルコト
　　宿太閤佐
　　代大物久
　　伯者雪

代大炊助時し敬文績
退出ノ事　強セ社司元モ氏人元モ遣ル
セシ也　日十六日ノ条錯雑
次第ニ返時ニ教不返
取テ旋教ノ事ヲ聞ヨリ
サヽヤキ返サセラレ

刈田井ニ縫殿以下
皆御遠ニ被離候ニ付、国所ニ引籠
右是迄四冊圖書以清書自筆ニ写之候処
ハ子息清幸筆ニ清書被仰付
并陽書ツク

右保望之書者成業縣主不思儀ニ被得之
因茲予令借用新写畢

千時
天明七丁未年七月十六日

正五位下賀茂縣主直一

右一書直一主恩借仍写之

文化十四年初冬

経千

安政四丁巳年初冬写之畢

経啓

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

山城國愛宕郡上賀茂社領卿村高取調帳

賀茂社中

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

高貳千八百拾七石九斗貳升五合貳勺九才　山城國愛宕郡
元朱印地高貳千五百七拾貳石　上賀茂社領

内
元御修復料高百三拾五石七斗九升四合九勺貳才
除地雜租高百拾石壹斗三升三夕七才

此譯

元朱印地
田高千五百九十石二斗九升七合　山城國愛宕郡
上賀茂村

此六ヶ年平均

物成米千百三拾壹石三斗八升六合九才

子年
米千三百貳石七斗八升六合

丑年
米千貳百六拾九石三斗七升六合貳才

寅年
米千拾壹石四斗七合壹才

卯年
米千三百三拾四石五斗九升四合七夕八才

辰年
米千百七拾貳石三斗四升三合六夕九才

巳年
米六百九拾八石壹斗七升四合

同上
畑高拾三石三斗八升九合四夕貳才

此六ヶ年平均

物成米拾壹石八斗五升六合四才

子年
米拾貳石五斗四夕八才

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

丑年
米拾貳石五斗四合八夕

寅年
米拾貳石五斗四合八夕

卯年
米拾貳石五斗四合八夕

辰年
米拾貳石五斗四合八夕

巳年
米拾石八斗八升六合

掛米七百九石六斗
米貳拾壹石貳斗七升壹合八夕 但米石ニ付
三升掛リ
巳年分
口米

合米千百六十四石五斗壹升四合貳夕九才

此諸渡 口

米貳拾壹石貳斗七升壹合八夕 御政府ヨリ上納
米四石 庄屋給
米壹石三斗貳升 年寄給
米貳石 定使給

米三石三斗

小以米三拾壹石八斗九升壹合八夕

差引

米千百三拾貳石六斗貳升貳合四勺

現收納高

水役給

元禄修覆料

田高六拾壹石壹斗貳升壹合五夕七才

同國同郡上賀茂村之内

松原村

此六ヶ年平均

物成米五拾六石六斗三升七合貳夕七才

子年
米五拾石三斗四合貳夕八才

丑年
米四拾九石壹升四合四夕壹才

寅年
米三拾九石三升九合五夕五才

卯年
米五拾壹石五斗三升弐合七勺
辰年
米四拾五石弐斗六升七合七勺
巳年
米百四石六斗六升五合

元御修覆料
畑高三拾四石九斗八升五合四勺五才

此六ヶ年平均
物成米三拾九石五斗弐升弐合四勺

子年
米三拾四石九斗八升五合四勺五才
丑年
米三拾四石九斗八升五合四勺五才
寅年
米三拾四石九斗八升五合四勺五才
卯年
米三拾四石九斗八升五合四勺五才
辰年
米三拾四石九斗八升五合四勺五才
巳年
米六拾弐石弐斗五合

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

同上
居屋鋪 高拾壹石五斗七升五合壹夕三文

此六ヶ年平均

物成米拾壹石五斗七升五合壹夕三文

子年
米拾壹石五斗七升五合壹夕三文

丑年
米拾壹石五斗七升五合壹夕三文

寅年
米拾壹石五斗七升五合壹夕三文

卯年
米拾壹石五斗七升五合壹夕三文

辰年
米拾壹石五斗七升五合壹夕三文

巳年
米拾壹石五斗七升五合壹夕三文

同上
藪 高拾三石九斗貳升七夕八文

此六ヶ年平均

物成米拾三石四斗八合三夕壹文

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

子年
米拾三石九斗貳升七夕八文

丑年
米拾三石九斗貳升七夕八文

寅年
米拾三石九斗貳升七夕八文

卯年
米拾三石九斗貳升七夕八文

辰年
米拾三石九斗貳升七夕八文

巳年
米拾石八斗四升六合

同上
林高拾壹石九斗六升八合五夕九文

此六ヶ年平均

物成米拾壹石九斗三升三合九夕九文

子年
米拾壹石九斗六升八合五夕九文

丑年
米拾壹石九斗六升八合五夕九文

寅年
米拾壹石九斗六升八合五夕九文

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

卯年
米拾壹石弐斗六升八合五夕九才
辰年
米拾壹石九斗六升八合五夕九才
已年
米拾壹石七斗六升壹合

掛米貳百壹石貳升八合
米六石三升八夕四才

合米貳百七石五升八合八夕四才

但米石弐
三升掛り
已年分

口米

林高谷寺

此諸渡方

米六石三升八夕四才

御改席ニ上納
口米

米壹石貳斗貳升

取立給

小以米七石貳斗五升八夕四才

差引
米百九拾九石八斗八合

現収納高

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

除地雜租高百拾石壹斗三舛三夕七戈

此六ヶ年平均

物成米九拾石七斗五舛貳夕三戈

子年
米百六石八斗貳舛六合四夕六戈

丑年
米九拾九石壹斗壹舛七合三夕三戈

寅年
米九拾三石六斗壹舛八夕壹戈

卯年
米百七石九斗貳舛七合七夕六戈

辰年
米九拾六石九斗壹舛四合七夕貳戈

己年
米八拾八石壹斗四合三夕

高 貳千八百拾七石九斗貳升五合貳夕九才

山城國愛宕郡

元朱印地高貳千五百七拾貳石

上賀茂社領

内 元御修覆料高百三拾五石七斗九升四合九夕貳才

除地雜租高百拾石壹斗三升三夕七才

此譯

山城國愛宕郡

下鴨村

田高三百三拾四石八合五夕

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

此六ヶ年平均

物成米貳百三拾石貳斗五升八合四勺九才

子年
米貳百七拾三石五斗五升貳合九勺六才

丑年
米貳百六拾六石五斗三升八合七勺八才

寅年
米貳百拾貳石貳斗九升五合八勺

卯年
米貳百八拾石貳斗三升三合壹勺三才

辰年
米貳百四拾六石壹斗六升四合貳勺六才

巳年
米百貳石七斗六升三合

畑高 六石四斗壹升貳合六勺壹才

此六ヶ年平均

物成米五石三斗九升六合壹勺七才

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

子年
米五石貳斗七合六夕壹ヶ

丑年
米五石貳斗七合六夕壹ヶ

寅年
米五石貳斗七合六夕壹ヶ

卯年
米五石貳斗七合六夕壹ヶ

辰年
米五石貳斗七合六夕壹ヶ

巳年
米六石三斗九合

掛米百九石壹斗五合
米三石貳斗七升三合壹夕六ヶ　但米石ニ付
三升掛り　口米
巳年分

合米貳百三拾八石九斗貳升七合八夕貳ヶ

此諸渡方

米三石貳斗七升三合六ヶ　御政庫ニ上納
口米

米貳石五斗

小以米五石七斗七升三合六ヶ　庄屋給

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

差引

朱貳百三拾三石壹斗五升四合七夕
六戈 現収納高

高貳千八百拾七石九斗貳升五合貳夕九戈 山城國愛宕郡
元朱印地高貳千五百七拾貳石 上賀茂社領

内 元御修覆料高百三拾五石七斗九升四合九夕貳戈
除地雜組高百拾石壹斗 三升三夕七戈

此 譯

田高五百五拾六石三斗四升壹合九夕七戈 山城國愛宕郡 小山村

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

此六ヶ年平均

物成 米三百八拾八石九斗九升貳合八夕壹ヶ

子年
米四百五拾五石六斗四升四合七ヶ

丑年
米四百四拾三石九斗六升八夕九ヶ

寅年
米三百五拾三石六斗壹升九夕六ヶ

卯年
米四百六拾六石七斗七升九夕壹ヶ

辰年
米四百拾石貳斗四升三合ヶ

巳年
米貳百三石九斗四升六合

畑高三升五合五夕

此六ヶ年平均

物成 米四斗壹升壹合八ヶ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

子年
米貳斗壹合三夕

丑年
米貳斗壹合三夕

寅年
米貳斗壹合三夕

卯年
米貳斗壹合三夕

辰年
米貳斗壹合三夕

巳年
米貳石三斗六斗

掛米貳百六石三斗六合
米六石壹斗八斗九合壹夕八夕　但米石ニ付
三斗掛り口米
己年分

合米三百九拾五石五斗九斗三合七夕

此諸渡方

米六石壹斗八斗九合壹夕八夕　御政席ニ上納
口米

米四石二斗

米壹石

取立役給

水役給

米 六 斗

小以米拾貳石八升九合壹夕八文

差引

米三百八拾三石五斗三合八夕九文 現収納高

定使給

高貳千八百拾七石九斗貳升五合貳夕九文 山城國愛宕郡 上賀茂社領

内 元御修覆料高百三拾五石七斗九升四合九夕貳文

元朱印地高貳千九百七拾貳石

除地雜祖高百拾石壹斗三升三夕七文

此譯

田高三拾三石壹斗貳升五合三夕三文 山城國愛宕郡 西賀茂村

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

此六ヶ年平均

物成米貳拾三石三斗八升三合六勺

子年
米貳拾七石壹斗貳升九合六勺

丑年
米貳拾六石四斗三升四合壹才

寅年
米貳拾壹石五升　四合四勺六才

卯年
米貳拾七石七斗九升　貳合　壹勺五才

辰年
米貳拾四石四斗壹升三合七才

巳年
米拾三石四斗七升八合

畑高八斗七升貳合六勺七才

此六ヶ年平均

物成米壹石六斗四升七合五勺六才

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

子年　米八斗七舛貳合六夕七戈

丑年　米八斗七舛貳合六夕七戈

寅年　米八斗七舛貳合六夕七戈

卯年　米八斗七舛貳合六夕七戈

辰年　米八斗七舛貳合六夕七戈

巳年　米五石五斗貳舛貳合

掛米拾九石　米五斗七舛

但米石三舛掛り
三舛
巳年分　口米

合米貳拾五石六斗壹合壹夕六戈

此諸渡方

米五斗七舛

御政府ゟ上納
口米

米貳斗

小以米七斗七舛

庄屋給

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

差引
米貳拾四石八斗三升壹合壹夕六才　現収納高

高貳千八百拾七石九斗貳升五合貳夕九才　山城國愛宕郡
元朱印地高貳千五百壹石七斗九升四合九夕貳才　上賀茂社領
内
元御修覆料高百三拾五石七斗九升四合九夕貳才
除地雑租高百拾石壹斗三升三夕七才

此譯

畑高五石六升七合五夕三才　山城國愛宕郡
千本廻り

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

此六ヶ年平均

物成米壹石壹斗四升

子年
米壹石壹斗四升

丑年
米壹石壹斗四升

寅年
米壹石壹斗四升

卯年
米壹石壹斗四升

辰年
米壹石壹斗四升

巳年
米壹石壹斗四升

掛米壹石壹斗四升
米三升四合貳夕

合米壹石壹斗七升四合貳夕

此諸渡方

米三升四合貳夕

御政所上納

但米石ニ付
三升掛り
巳年分

口米

米壹升壹合四夕

小以米四升五合六夕

差引米壹石壹斗貳升八合六夕　現収納高

右之通ニ御座候以上

取立給

明治四辛未年六月

京都
御政府

賀茂一社中

国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

賀茂皇太神宮御社領被為奉寄候
手續之官符以下之扱書
并願書

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

御奉願上候ニ付上覧
御寄附被遊其外六卿並諸国
社依之神ゟ神封等毎度御
九十八石余ゟ社記ニ所見在之年中祭禮者不及申
饌等並厳重備進致ス来候處保元年治之頃ゟ
除ク刻り英雄四方ニ割據仕諸国神領大半蒙掠奪年中諸
到ル迄多ク廃絶社家一同悲歎此事ニ御座候處元正年中
貳千五百七十貳石朱印頂戴仕今以右之次第ニ御座候得共
御座候得者右社領ニ者諸事行屆兼候ニ付年中諸神事以下多ク
仕候
供神饌戊
納ル月ニ両度調進仕候様之儀ニ而寶以奉恐

願書奉書四ツ折

謹而奉願上候以上覽

賀茂社白主天神宮御儀者注右ノ通
朝廷之御尊崇不准他社依之神戸神封等毎度御寄附被遊其外六卿並諸国
散在神領等都而九萬九千八十石余ヲ社記ニ所見在之年中祭禮者不及申
堀河天皇御聖願日供之神饌等嚴重備進致シ来候處保元年治之頃ヨリ世上漸窮
騒劇旋而文明應仁之際到リ英雄四方ニ割據仕諸国神領大半蒙掠奪年中諸
神事並日供之神饌等到テ追々及廢缺社家一同悲歎此事ニ御座候處天正年中
檢地之節豊大閤ヨリ貳千五百七十貳石朱印頂戴仕今以右之次第ニ御座候得共
元来多人數之社家ニ御座候得者右社領ニテ者諸事行届兼候恐乍年中諸神事以下多ク
不渡相拾珠ニ上件申上候
堀河天皇御叡願之日供神饌幷ニ月ニ両度調進仕候様之儀ニ而寳以奉恐之

…時節ノ伺ニ愁訴可奉申上覚斯…
…候右萬機御一新之運ニ膺リ東邊西垂都ノ皇化ニ帰シ天下億兆之蒼生
…候祈祷ニ御座候得者何卒
…慮御紹述被遊被下珠ニ者當春
…奏事始之節神鎮再興之儀早可致其沙汰被為
…以御儀モ御座候得者以格別之
…神中古以来及零落候神鎮漸古被成下年中諸神事以下並日供神饌等
…行相成候様祉為
…被下候得者弥天下泰平
…安穏御祈禱可奉抽丹誠ラ重々難有仕合奉存候依之一社一同此段謹ノ
…候以上

明治元年辰十二月

賀茂一社惣代

賀茂皇太神宮御社領被奉寄候

年月手續書

社記云

聖武天皇

天平二年十二月十四日奉寄御手代田

一町

石者御戸代會御神事料也仍自此時

御戸代會御神事始被行

候深旁有時節ノ伺ニ愁訴可奉申上覚斯御座候處今般
王政復古萬機御一新之運ニ膺リ東遷西坮都ヲ皇化ニ帰シ天下億兆之蒼生
浴鴻澤候折柄ニ御座候得者何等
先聖之
御叡慮御紹述被遊被下度者當春
當宮
葵事始之節神鎮再興之儀早可致其沙汰旨被
仰出候御儀ニ付御座候得者以格別之
御敬神中古以来及零落候神鎮復古被成下年中諸神事共並日供神饌等旨
規執行相成候様祉官
御付被下候得名誉天下
奉
王休妄慮御祈禱可奉抽丹誠ヲ重々難有仕合奉存候依之一社一同此段謹
奉願上候以上

明治元年辰十二月

賀茂一社惣代

賀茂皇太神宮御社領被
奉寄候
年月手續書

社記云

聖武天皇

天平二年十二月十四日奉充御手代田
一町

石者御戸代會御神事料也仍自此時
御戸代會御神事始被行

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

次一年申神事用途之少之由加増一町

續日本紀云

桓武天皇

延暦四年十一月庚子詔ノ賀茂下上

神社充愛宕郡各封十戸

社記云

清和天皇

貞觀六年三月十四日以太皇太后宮職

勅旨田攝津国河辺郡山本卿蔵野

肆拾五町九段七十歩被寄進于

賀茂社（社家谷庄是也）

又此時

貞觀年中賀茂祭使之食料稻四

百山城国正税ヲ以テ出給

小右記

後一条天皇

寛仁元年十月廿五日 幸賀茂 宣命

天皇我詔旨止掛畏伎賀茂皇大神乃

廣前尓恐見恐見毛申賜依止申久云々

又前年仁愛宕郡一群奈加良可奉斎之

由遠令新申給依利而件郡内尓所在

或帝王ノ城都或明神領地万代相

傳之処奈利曽非二人自由之地尓仍

南者皇城乃地乃大路乃同末遠限天

東波郡界至末天西波大宮乃東大路乃

同末乎限天北波郡界尓仁至末天奉

寄給云々

寛仁元年十月廿五日

類聚符宣抄云

應以山城国愛宕郡捌箇郷奉

寄上下天神宮事

御祖社四箇郷

葵多倉卿　栗栖野卿　上栗田卿　出雲卿

別雷社　　西篇固卿

加茂卿　小野卿　　錦部卿　大野卿

右去年十一月廿五日行幸彼社以件八卿

被奉寄了今商量便宜平均田圃

雜舍並上下扶禽神社神館神宮寺等

所定加件云々自今以後悉為神領

即以其應輸物永充恒例祭祀神殿

修造并臨時臣細之新矣正二位行大

納言兼右近衛大將藤原朝臣實資奉

勅依件宣宛者省宜承知依宣行之

符到奉行

左少弁兼伊予守源朝臣　　正五位下行式部大輔兼文章博士藤原朝臣

寛仁二年十月廿五日

社記云

後堀川天皇

寛治三年十二月廿四日相定御神饌事申之

同大田大明神之御膳事申之云々

同四年正月廿二日被下　宣七日上下社長日

御膳料被奉寄庄々等充少弁藤原

為房充史祐俊矣仍向上下社奉

行之各社司等之膳義之外記清

原定俊有記宣之事云々

同記云

同御字

寛治四年三月廿六日以参議保實卿

為賀茂社之奉幣使始自今日調進神

膳被令献於大神之宝前社司等有

記宣之由依申之也云々

同年七月十三日賀茂御祖別雷二社

被奉不輸田六百餘町為御供田進日

依有夢想被供御膳也且是神祝不

足故又分置御厨於諸國云々

百練抄云

寛治七年五月八日諸卿定申尾張國

大小社即木起左事并賀茂社記

宣御馬飼事

院廳下　備前國在廳官人等

可早無事煎令運上賀茂別雷社領

山田竹原等庄年貢米事

右彼庄依御氣者嚴重用途也云々點宣之　文元

船云水手之催不進他所早催仟等之課役

正路次之狼籍合期可令運上之狀所請如件

庄廳官人庄官等宜承知不可違失故下

壽永二年十月四日　主典代織部正兼皇后宮大屬左朝臣判

別當中納言兼民部卿藤原朝臣判

大藏卿高階朝臣判

參議右大弁平朝臣判

判官代左衛門權佐藤原朝臣判

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

東鑑云

元暦元年四月廿四日壬辰 賀茂社領

四十一ヶ所 院廳御下文可止武家

狼藉之由有其沙汰云々

下諸國

可早任 院廳御下文 停止方々之狼藉

備進神事用途賀茂別雷社御領庄園事

近江国弁本庄 安曇川御厨

當庄并安曇川御厨毎度下し文

元暦元年 同年十二月九日 左弁官下文

左弁官 応停止河上并善積庄及国中權門勢家

庄園妨令濫進賀茂別雷社領安曇川

御厨日別供祭物事其文畧之

文治二年九月廿五日 頼朝御下文

下近江国安曇川御厨

可令早停止完綱知行任先例勤仕

神役事

其文畧之

左弁官下

応任嘉応元暦宣旨停止此數庄民

當時向後濫妨就賀茂社領當国安曇川

御厨漁進全日別供菜料間事

右得彼社司等云々寛治

聖代被下宮号以降神人五十二人別紙参国
領公田三町々々
寄人五十二人神田五十六町云々

美濃国　腰長庄
尾張国　高畠庄　玉井庄
三河国　小野田庄
遠江国　北木庄　笠名郷　落居濱
丹波国　由良庄　私市庄
摂津国　栄谷庄
播磨国　安志庄　林田庄　室塩屋　御厨

文治二年九月五日　頼朝御下文
下播磨名国　安志庄　林田庄
可早停止旁武士狼籍勤仕神役事
其文畧之
同年九月五日再頼朝御下文
下播磨名国　安志庄　林田庄
室　御厨
可早停止旁武士狼籍勤仕神役事
右云々其文畧之
同年十月一日　頼朝御判
播磨国　納手庄
本文畧之
建武三年十月十八日　武蔵權守判物
賀茂社領播磨国室御厨下司并公文
職事
室四郎朝兼致濫妨狼籍云々早停
止次違乱可令社家之所勤若有子細
者可注進申之状依　仰執達如件

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

美作国　倭文庄　河内庄
便補保

建武三年十月十日　武蔵権守判
赤松入道殿

永正十年十月九日　真久判物

就倭文庄御公用之儀重而山本殿御下候
渡分申付京着五十五貫文上申候仍御
補任下給候誠以畏入候然者此内五百
疋者御補任為御礼運上申候相残御
公用可致済候之間山本殿御左右
可有御申候尚慈者被官中より可申候恐々謹言

永正十年　真久判
十月廿日

備前国　山田庄　竹原庄

備後国　有福庄
伯耆国　星河庄　稲積庄
出雲国　福田庄
伊予国　菊万庄　佐方保
周防国　伊保庄　矢嶋　柱嶋　竈戸関

文治二年九月五日　再頼朝御下文
下周防国伊保庄竈戸関　矢嶋　柱嶋
等住人
可早停止土肥實平妨并亡人大野七良
遠正不當沙汰令進止事

和泉国　深日庄　菅作庄

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

淡路国　佐野庄　生穂庄

紀伊国　紀伊濱御厨

阿波国　福田庄

能登国　土田庄　桃浦

若狭国　宮川庄　矢代浦

寛正五年十二月九六日　判物
賀茂社領和泉国箱作庄与淡輪
庄堺山林浦等事為社領数年知行

嘉禎二年九月十五日下知状
賀茂別雷社領若狭国宮川庄雑掌与
昂刻宮河ノ保ノ地頭相論之

加賀国　金津庄

永録十二年　判物
當社領加賀国金津庄事當知行
之処国錯乱以来毎年沙汰之次不可
然所詮静謐之上者為直勢全領知
可被抽御祈禱丹誠之由所被仰也仍
執達如件
永録十二年七月三日　右馬助判
加賀社雑掌　前信濃守判

越中国　新保御厨

右肆拾二箇所神領
任院廳御下文停止

方々狼藉武士等鎮
改如元可備進神事
用途若不恐神威不
用院宣憚可處重
科之状如件

壽永三年四月十四日

正四位下源朝臣（判）

文治二年（判）

下山城国　森本卿　水主卿　富野卿
奈嶋卿　草内卿　奈木卿

可令停止旁武士狼藉任先例勤仕神役事
右件所々者賀茂別雷社領也而近日面々
武士寄事於充右任自由企濫妨之間恒例臨
時所役及闕如云々早停止旁狼藉可
令勤仕本役之状如件

文治二年九月五日　頼朝（判）

寛元二年（判）

賀茂別雷社領石見国久永庄与漢（判）

入紙之事
書如此子細見状
五日関東当知行
御寄合之度一勿
護持之旨仰於大
左右之時
之事
無任御
文
本

雑事間事仕解副
具
第元二年十月十
友右大弁殿
薬
家
停止
勅
免除
兼
毀
状
停止事
入紙

免除
寛元二年六月廿日
雑事間事仕解副
具
書如此子細見状
五日関東当知行
御寄合之度一勿
護持之旨仰於大
左右之時
之事
無任御
文
本

建長四年十月六日 相撲召列
陸奥守泰時朝臣 陸奥守列
山
嘉暦元年十二月廿日高時入道判物
賀茂新宮領 幸江國濱雲 當荘
雑掌忠義申 當地頭職事
後押領使 陸奥守泰時 修理亮泰盛
沙汰 社司申 當荘
並 新宮沙汰 社司申 當荘
可令勘定給候哉否 依仰執達如件
六月廿日 陸奥守泰時 相模守貞時
嘉暦元年十二月廿日 沙汰
嘉吉元年 列物
賀茂社領雑事 尾張僧事
社家人押領スト云ヘ共 早止
事好沙汰 雑事 右之

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

延徳二庚戌年二月廿二日　宗清判
　　　　　　　　　　　　　為親判

明應三年判物

賀茂社領近江国蒲生郡
船木庄不可本家幸江商船
乍須免許之旨相拘之地毛
許仰付畢仍状如件

明應三
二月廿二日　　為親判
　　　　　　　清宗判

南社氏中

天正元年酉二月廿二日　秀吉公判物

於賀茂社領能州羽咋郡内之村々
并於当州金持庄十ヶ村事如先
国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』　請求記号 832-305
ガラス使用
来諸役等免許畢可全其
勤之状如件

天正元
十二月廿二日　　秀吉判

南社氏中

永正二年四月廿九日　宗清判

於賀茂社領境内之
殺生禁断之事
右条々於違犯輩者
為其科可被処厳科
之状如件

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

永正二
[illegible]
[illegible]

河上 天宮 小山 中村
右之通可[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

永正七年三月廿四日 義元判物

[illegible]領[illegible]ニ於義元ニ[illegible]
[illegible]納[illegible]不[illegible]出[illegible]
[illegible]為[illegible]

八月七日 義元判

永正十七年四月十六日 [illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

永正十七年四月六日之長判物

我州於賀茂社領境内不可有狼藉事

軍勢軍人等乱入之時、狼藉者可護使者、不可

違背之事

堅可停止事、一万一之儀

當社神領、悉可被御祈禱、滅可肝要候

永正十七

四月 六日

之好 花押

之長判

永錄六判物

堅可停止事、一万一之儀

當社神領、悉可被御祈禱、滅可肝要候

永錄六

四月 六日

之好 花押

之長判

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

永禄六七月廿二日

一条里中

元亀二年判物

当社領山限南北両神奉
出来候百姓
猶新儀を構候ハヽ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

天正十九九月十三日　秀吉御朱印

元和元年家康卿朱印

天正十九
九月十三日　秀吉公
御朱印

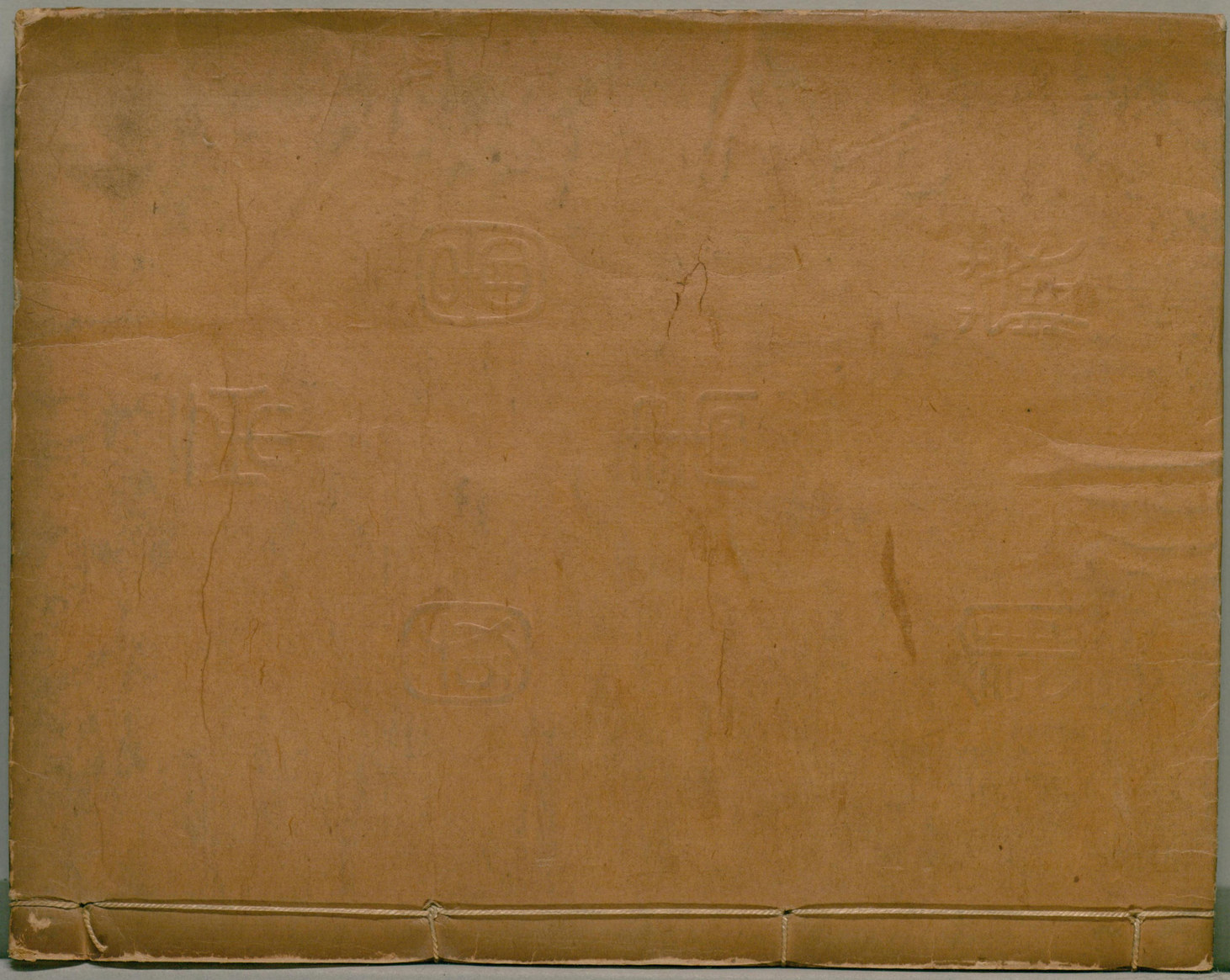
右當皇太神宮御神領大政官符
以下古證文類奉備
高覽候間
何率格別之御擯慇懃之以本願書之
通被
御分被下候樣謹奉願上候以上
賀茂一社中

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録．第32冊』請求記号 832-305

832
97
305

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305

ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第32冊』 請求記号 832-305